

指導と評価の計画【公民科：倫理】

単元名 「日本人らしさ」の考察	内容のまとめり A 現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 (2) 国際社会に生きる日本人としての自覚
---------------------------	---

1 単元の目標

日本人としての在り方生き方について思索する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解する。
- ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る。
- ・ 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について思索を深め、学習した先哲について更に調べてみたいことを自身の悩みや現代日本人の倫理的課題と関わらせて見いだすとともに、自身のこれからの生き方についての課題を見いだす。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解している。 ・ 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人としての自らの体験や悩みを振り返り、古来より日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を踏まえた上で自己の課題として捉え直し、日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について思索を深め、学習した先哲について更に調べてみたいことを自身の悩みや現代日本人の倫理的課題と関わらせて見いだすとともに、自身のこれからの生き方についての課題を見いだしている。

3 指導と評価の計画（15時間）（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
単元の導入 1時間	第1時	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【単元を貫く問い】 これからの時代においても大事にすべき「日本人らしさ」とはどのようなものだと考えるか。</p> </div>				
		<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【単元の導入のねらい】我々日本人は古来からの伝統的な歴史・文化の積み重ねにより「日本人らしさ」を形成してきたと言える。一方で、今後到来するであろう、予測困難で変化の激しい時代においては、これまでの「日本人らしさ」に対する価値観が揺さぶられることも少なくないだろう。こうしたなかで今一度注目すべき、あるいは拠り所とすべき「日本人らしさ」とはどのようなものか、国際社会に生きる一人の日本人として主体的に考察するための見通しをもたせる。</p> </div>				
		<p>◇「日本人らしさ」と聞いて思い浮かべるキーワードを全体で出し合ったのち、どのようなことが分かれば単元を貫く問いに対する答えが導かれるかをグループで交流し、解決への見通しを立てる。</p> <p>問「日本人らしさ」と聞いて思い浮かべるキーワードは何か (予想される意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協調性がある・勤勉さ・おもてなしの精神 等 <p>問どのようなことが分かれば単元を貫く問いに対する答えが導かれるか (予想される考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各「日本人らしさ」が形成されたルーツをたどる。 ・時代の転換点で日本の先哲たちはどのように考えたのかを知る。 等 			●	●対話を通して、単元を貫く問いに対する答えを導くために必要なことを挙げるなど、解決への見通しを立てている。(発言)

<p>第①次 8時間</p>	<p>第2・3時</p>	<p>【第①次のねらい】我が国の風土や伝統、外来思想の受容などをもとに古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目し、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を理解させる。</p> <p>【第①次の主題】 「日本人らしさ」はどう形成されてきたのか。各時代において日本人はどのような価値観を持ち、また日本の先哲たちはどう日本人を評してきたか。</p>	
	<p>【第2・3時のねらい】日本人の心情や考え方と風土との深い関わりを捉えることができるようにすることで、その後の日本の伝統思想を形成する上で底流となっていることを理解させる。</p> <p>【主題】 我が国の風土は古来の日本人の心情や考え方とどのような関わりをもってきたか。</p>		
<p>◇【主題】に対する代表的な先哲の思想、日本人の人間観、自然観や宗教観について、教科書・資料集等を用いてわかったことを各自ワークシートにまとめたのち、グループ内で交流し、対話的な活動を通して理解を深める。</p> <p>留) 原始神道に見られる人間と自然との関わりについての意識、日本人の死生観、善悪についての道德観、自然への感じ方について特に留意させる。その際、民俗学の成果や本居宣長などの古代の精神研究も紹介する。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>●古来の日本人の心情や考え方について、教科書の記述や資料集の原典資料をもとに適切に読み取り、その内容をまとめている。(記述)</p> <p>●ワークシートにまとめた内容をグループで交流するなかで、主題に答える上で必要な事柄を見いだしている。(発言)</p>	
	<p>第4・5時</p>	<p>【第4・5時のねらい】日本独自の仏教の受容やその思想形成と展開は、日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしているかを理解させる。</p> <p>【主題】 仏教の受容は、古来の日本人の心情や考え方をどのように変化させたか、または変化しなかったものは何か。</p>	
	<p>◇【主題】に対する代表的な先哲の思想について、教科書・資料集等を用いてわかったことを各自ワークシートにまとめたのち、グループ内で交流し、対話的な活動を通して理解を深める。</p> <p>留) 聖徳太子や平安時代、鎌倉時代の仏教を展開した代表的な先哲は、それまでの仏教の在り方をどのように受け止め、それに対してどのように独自の思想を展開したかについて特に留意させる。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>●先哲の思想について、教科書の記述や資料集の原典資料をもとに適切に読み取り、まとめている。(記述)</p> <p>●ワークシートにまとめた内容をグループで交流するなかで、主題に答える上で必要な事柄を見いだしている。(発言)</p>

<p>第6・7時</p>	<p>【第6・7時のねらい】日本独自の儒教の受容やその思想形成と展開は、日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしているかを理解させる。</p> <p>【主題】 儒教の受容は、古来の日本人の心情や考え方をどのように変化させたか、または変化しなかったものは何か。</p>	<p>◇【主題】に対する代表的な先哲の思想について、教科書・資料集等を用いてわかったことを各自ワークシートにまとめたのち、グループ内で交流し、対話的な活動を通して理解を深める。</p> <p>留) 伊藤仁斎など江戸時代における儒学諸学派を起こした代表的な先哲が、儒教をどのように受け止め、それをどのように日本人としての在り方生き方に役立つものとしたかについて特に留意させる。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>●先哲の思想について、教科書の記述や資料集の原典資料をもとに適切に読み取り、まとめている。(記述)</p> <p>●ワークシートにまとめた内容をグループで交流するなかで、主題に答える上で必要な事柄を見いだしている。(発言)</p>
<p>第8・9時</p>	<p>【第8・9時のねらい】西洋文化の受容やその後の近代思想と展開は、日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしているかを理解させる。</p> <p>【主題】 西洋文化の受容は、現代に生きる日本人の心情や考え方にどのように影響を与えたか、または変化しなかったものは何か。</p>	<p>◇【主題】に対する代表的な先哲の思想について、教科書・資料集等を用いてわかったことを各自ワークシートにまとめたのち、グループ内で交流し、対話的な活動を通して理解を深める。</p> <p>留) 西洋文化摂取後の近代思想やこれに基づいて新しい文化や思想を形成しようとした福沢諭吉や和辻哲郎などの先哲について特に留意させる。</p>	<p>●</p> <p>●</p>	<p>●先哲の思想について、教科書の記述や資料集の原典資料をもとに適切に読み取り、まとめている。(記述)</p> <p>●ワークシートにまとめた内容をグループで交流するなかで、主題に答える上で必要な事柄を見いだしている。(発言)</p>

<p>第②次 5時間</p>	<p>第10 ～ 14時</p>	<p>【第②次のねらい】「哲学対話」のプレゼンテーション作成を通じて、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を踏まえた上で自己の課題として捉え直し、日本人としての在り方生き方について考察させる。</p> <p>第②次の主題 過去の先哲たちになりきり、「大事にすべき日本人らしさとは」というテーマで哲学対話をしてみよう。</p>	<p>◇第①次の内容を踏まえ、単元を貫く問いに対しての自身の考えを1つ挙げ、グループ内でそれを表明し合うとともに、その考えの根拠となりうる先哲たちを挙げる。</p> <p>◇その先哲たちになりきり「哲学対話」をしている様子をプレゼンテーションするための準備をする。(先哲たちが対話をしている場面を想定し、プレゼンテーションソフトにてそのやりとりの様子を作製していく。)</p> <p>留) 予め異なる考え・先哲を選択した生徒同士でグループを組んでおき、多面的・多角的に「哲学対話」が行われるよう配慮しておく。</p> <p>留) 先哲の原典資料、古事記や日本書紀、万葉集や芸術作品を再度深く読み込んだり、日本の年中行事や祭りを調べたりする活動を通して、当時の日本人に対しエンパシー*を働かせた考察をさせる。</p> <p>問異なる立場・考えの者同士での対話を経て、考えはどのように変化しただろうか。</p> <p>留) 「哲学対話」の様子を作成するなかで、自らの考えを古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方と比較し、再検討しながらまとめさせる。</p> <p>◇グループごとに「哲学対話」のプレゼンテーション発表を行ったのち、右記評価の観点について相互評価を行う。</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>○これまでの学習を踏まえ、自身の考えの根拠として、日本人の心情や考え方、先哲の思想を原典資料等に基づいて適切に取り上げ、活用している。(記述)</p> <p>● ●自身の考えと関わらせながら、先哲の思想について原典資料等を読み取ったり、日本の文化風習について調べたりするなかで当時の日本人の心情・考え方にエンパシー*を働かせている。(記述)</p> <p>○日本人としての自らの体験や悩みを振り返り、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を踏まえた上で自己の課題として捉え直し、日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(プレゼンテーション)</p>

*エンパシー：他人と自分を同一視することなく、その当時の人物に想いを馳せ、心情をくむことをさす。

単元のまとめ 1時間	第15時	<p>【単元のまとめのねらい】単元を貫く問い『これからの時代においても大事にすべき「日本人らしさ」とはどのようなものだと考えるか。』について、単元の学習内容を振り返り、この問いに対する自身の考えを、学習活動と関わらせながらレポートにまとめさせる。</p>	<p>◇単元を終えた段階での単元を貫く問いに対する自身の考えをレポートにまとめさせる。</p> <p>問 これからの時代においても大事にすべき「日本人らしさ」とはどのようなものだと考えるか。</p> <p>留) 自身の考えをまとめさせる際には、次のような視点からまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入段階での自身の考え方とまとめの段階での考え方を比較し、その変化について単元の学習と関連付けて考察させる。 ・単元を貫く問いに対して、新たな問いや自身のこれからの生き方についての課題を記述させる。 	<p>○</p> <p>○</p>	<p>○古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想を手掛かりとして、より広い視野から日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現している。 (記述)</p> <p>○ これまでの学習を振り返り、自身の考えの変化などに着目し、考えを深めたり、まとめたりする上で参考になった事柄を見いだしている。 (記述)</p> <p>○ これまでの学習を振り返り、学習した先哲について更に調べてみたいことを自身の悩みや現代日本人の倫理的課題と関わらせて見いだすとともに、自身のこれからの生き方についての課題を見いだしている。(記述)</p>

4 観点別学習状況の評価の進め方

<どのような評価を行ったのか（評価実践例）>

上記の「指導と評価の計画」を作成する以前に行った学習活動の評価例を掲載する。

評価を行う上でのルーブリックは以下のとおりである。

（単元「日本人としての自覚」）

ルーブリック評価	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、「日本人らしさ」を説明する上での根拠として日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解している。 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質、さらには日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、「日本人らしさ」を説明する上での根拠として日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を理解している。 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を読み取る技能を身に付けている。 	古来の日本人の心情と考え方、先哲の思想の読み取りや理解が不十分で、「日本人らしさ」を説明する上での根拠の内容が不適切である。
思考・判断・表現	古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想を手掛かりとして、より広い視野から日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質、さらには日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、「日本人らしさ」を説明する上での根拠として適切に表現している。	古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想を手掛かりとして、日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を考察し、「日本人らしさ」を説明する上での根拠として適切に表現している。	古来の日本人の心情と考え方や先哲の思想を、「日本人らしさ」を説明する上での根拠として適切に結び付けることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	学習した古来の日本人の心情と考え方、先哲の思想を踏まえて日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を考察するとともに、自身の悩みや現代日本人の倫理的課題と関わらせて、自身のこれからの生き方についても考察したり、自身の考えの変化などに着目し考えを深めたりしている。	学習した古来の日本人の心情と考え方、先哲の思想を踏まえて日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を考察し、自身の考えを意欲的に説明しようとしている。	学習した古来の日本人の心情と考え方、先哲の思想を踏まえて日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質を考察することができず、自身の考えを形成することができていない。

単元「日本人としての自覚」のまとめの活動として、以下2つの問いに対しレポート提出を求めた。その記述に対してどのような評価をつけたかについて、一部抜粋して述べる。

2つのクエッションをもとに、評価の3観点に該当すると判断できる記述についてそれぞれ評価した。

Q1. 「日本人らしさ」の背景にはどのような文化・思想があると考えられるか。あなたが考える日本人的特質を最低1つ挙げ、その特質に関する思想家の思想に触れつつ説明せよ。

<想定されるB評価の記述例> *主に以下2項目を評価

- ・・・日本人らしさと先哲の思想が適切に関連しているか。【思・判・表】
- ・・・挙げた先哲の思想内容に誤りはないか。【知・技】

日本人は、ひけらかさずにひたむきに努力することや、自分のためというより世のため人のために尽力することが美德とされると考える。この背景には、二宮尊徳が主張した、勤勉と儉約に努めることや報徳の思想が根付いているのではないだろうか。

Q2. あなたが一番納得のできる思想家に触れつつ、重んじるべきと考える日本人の倫理観について、自由に述べてください。

<想定されるB評価の記述例> *主に以下2項目を評価

- ・・・自身が重んじるべきと考える倫理観について理由も踏まえて説明しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
- ・・・先哲の思想と重んじるべきとした日本人の倫理観が適切に関連しているか。【思・判・表】

私は二宮尊徳の報徳思想が一番納得がいき、これからの日本人にとって重んじるべき思想だと考えた。現在世界では排他的風潮も見られるが、自分だけ、あるいは日本人だけの力で身の回りの社会や世界が成り立っているわけではないことを再認識すべきだと感じている。今の自分たちがあるその恩に対して報いようとする精神は、日本人がこれまでも大事にしてきたものであり、今一度重んじるべきだと考える。

「知識・技能」、「思考・判断・表現」：C評価の例

Q1について、次のような記述が見られた。

Q1. 「日本人らしさ」の背景にはどのような文化・思想があると考えられるか。あなたが考える日本人的特質を最低1つ挙げ、その特質に関する思想家の思想に触れつつ説明せよ。

賀茂真淵 高く直き心
本居宣長 もののあはれ、真心) わび、さび、自然美

「賀茂真淵－高く直き心」、「本居宣長－真心」はともに先哲とその思想内容としては合致しているものの、記述量が乏しいために「知識・技能」はC評価とした。さらに、「わび、さび」は仏教思想との関連のなかで登場する美意識であるが、「高く直き心」や「もののあはれ、真心」とどう結び付けて考えたかに関して記述がなく、判断が不十分であるとし、「思考・判断・表現」に関してもC評価とした。

以下についても、吉田松陰の説明自体は誤りではないが、主張の根拠への言及がなく、「思考・判断・表現」はC評価とした。「主体的に学習に取り組む態度」については、自分の考えが表れているという点からB評価としている。

Q2. あなたが一番納得のできる思想家に触れつつ、重んじるべきと考える日本人の倫理観について、自由に述べてください。

吉田松陰は「孟子」の至誠を主張していて、誠を尽くして心を動かさない者はいないと考えるところがいいと思いました。

OK

「知識・技能」：A評価の例

一方で、以下の回答は、小中学校での経験や、幼少期から親から言われてきたことを踏まえての回答となっており、自己との関わりにおいて理解できている。このため「知識・技能」に関してはA評価とした。（その他の観点はB評価）

Q1. 「日本人らしさ」の背景にはどのような文化・思想があると考えられるか。あなたが考える日本人的特質を最低1つ挙げ、その特質に関する思想家の思想に触れつつ説明せよ。

< 仁・愛などの相手を思いやる心 >

・ 中江藤樹は、孝を、親を愛しうやまう心であるとともに、それを主従・夫婦・兄弟・朋友などあらゆる人間関係に及ぼすことで人倫を成立させる原理とした。

・ 伊藤仁斎は、日常のあらゆる人間関係において実践されるべき人倫日用の道として「仁愛」を主張した。

↳ 小学校や中学校で友達に思いやりの心をもって接していじめをなくすと言われていたり、知らない人であっても、高齢者や障がいをもつ人、外国人など、困っている人を助けようと思っていたりする。

< 素直さ・正直さ >

・ 伊藤仁斎は、他者に対して、偽りなく自己をつくす「忠信」の実践を求めた。

・ 本居宣長は、うまれたままの素直な「真心」に従うことを主張した。

↳ 小さい頃から、親に「素直」や「ウソをつかないことは大事だ」と言われてきたから昔から今まで、素直であることや正直であることは大事だと考えられてきたということが分かる。

OK!

「主体的に学習に取り組む態度」：A評価の例

以下の回答は、「日本人らしさ」の考察として「林羅山の上下定分の理」には触れているが、その根拠への言及は不十分であり「知識・技能」はC評価とした。一方で、「日本人は言葉にまでその敬意が表れて」というと分析し、歌や詞など文字を書くのが好きであったからではないかと思考している。日本人の特質について多面的・多角的に考察している点では良い着眼点であるが、あくまで推測でありそのように考える知識が伴っていないことから「思考・判断・表現」についてはB評価とした。一方で仲間の発表を聞いて自身の考えを深めている記述が見られる。自身の考えの変化に着目しているとして、「主体的に学習に取り組む態度」についてはA評価とした。

。日本人らしさ ... 敬語とかあるように相手を敬う心が強い。

会社でも、学校でも 店員と客でもいろいろな場面でも敬語が使われている。相手に敬意を示すのはとても良いことだと林羅山の上下定命の理??

思いつく、敬語を使わないじゃないのよ。おはようございますって思っちゃいます。外国の人でも相手に敬意をもちていると思うけれど、日本人は言葉にまでその敬意が表れていて、文字をかくのが好き(ごちそうなのかなと思っ)。 (歌とか詩とか)



Nice!



先生の意見を聞いて、確かに、外国は神への敬意がすごいけれど日本人はその唯一神を信じる人が少ないから、人それぞれに敬意を表しているのかも!

以下の回答についても二宮尊徳の思想を踏まえた上で、自身のこれからの生き方についての言及が見られる。よって「主体的に学習に取り組む態度」に関してA評価とした。(その他の観点はB評価)

Q2. あなたが一番納得のできる思想家に触れつつ、重んじるべきと考える日本人の倫理観について、自由に述べてください。

人に感謝する心を重んじるべきだと思う。二宮尊徳の報徳思想のように、様々な人からの恩恵を自覚し、みずからの徳によってそれに報いていくことが大切だと思う。身近なところだと親や祖父母がいてくれるおかげで自分があるし、17年間大きな問題なく生まれることができていたから、これから働けるようになったら、今度は自分が親や祖父母を支えられるようになりたい。また、細かいところまで考えると、日本で自分が使っている物や食べている物にはいろいろな人の関わりがあるから、そういうところまで目を向けて感謝して過ごすことができればいいなあと思う。

上記の実践は、先述のとおり、単元「日本人としての自覚」について授業のまとめとしてレポートを課したものである。よって生徒に記述はさせたが、知識面への言及が乏しく、資料をそれほど読解できているかについても不明瞭であり、深い思考・判断・表現が伴っていない。主体的に学習に取り組む態度についても、自分の言葉で考えを表明できているかどうかでしか評価できておらず、大きな課題が残った。

今回の指導と評価の計画では、個人探究→グループでのプレゼンテーション作成→個人レポート作成と段階を経て、知識・技能や思考・判断・表現が深まるよう計画をしたが、学習を何層にも積み重ねることで、示された評価規準やルーブリックに則り、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」それぞれの観点が深まっていくような単元を構想することが肝要である。また単元末に「評定に用いる評価」のみを行うのではなく、単元の合間に行う「学習の改善につなげる評価」を十分機能させ、単元を通してC評価からB評価、そしてA評価へと改善していけるような指導を充実させていきたい。

5 今後の課題

今回、この指導と評価の計画を作成した上で感じた課題は、1つ目に今一度「指導と評価の一体化」を明確にすること、2つ目に評価の3観点を具体的な姿で事前に整理しておくことについてである。

まず1つ目の「指導と評価の一体化」についてだが、これはこれまでも再三強調されてきたことである。しかし、今回「教科書のここからここまでの内容を教えないといけない」という考えを前提に単元を構成してしまい、無意識に単元のねらいが「知識の習得」をベースに考えてしまったように感じる。ゆえに思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度の評価は後付けのようになってしまった。すると、最初に示した評価規準と各授業のねらいがちぐはぐになったり、思考・判断・表現活動をさせているのに知識・技能を評価しているといった、活動と評価の不一致がおこったりする計画になってしまった。当然のことながら、本来は先にその単元・授業のねらいがあり、そのねらいを達成するための活動を組み、かつその活動が効果的なものであったのか、ねらいは達成されているのか評価を行う必要がある。目の前の生徒たちの具体的な姿をイメージして単元の目標を設定し、そのための指導と評価になっているのかを常にチェックしながら計画を組むことが重要であり、改めの課題だと感じた。

次に2つ目の評価の3観点を具体的な姿で事前に整理しておくことについてだが、いざ指導と評価の計画を作成してみると、観点別評価におけるA評価とB評価の境が曖昧で評価をつけるときに苦勞したり、3観点のうちどの観点で評価したらよいか迷ったりする場面が多くあった。これは前者で述べたように、やはりねらいと指導・評価を一体化させて計画ができていなかったゆえのことであると反省した。ルーブリックを作成する段階で、最低限このような姿になってほしいというねらい（B評価）を予め想定し、そこに至っていないようなら単元の途中で形成的評価によってB評価やA評価の姿に引き上げるような手立てを打っていかねばならない。

最後に、やはり難しさを感じるのは思考・判断・表現の力をどうテストで評価するかである。知識の有無はテストで○×がつけやすく、生徒も力がついたかが分かりやすい。特に地理歴史科・公民科の科目は、もっている知識が増えれば模試や受験でも得点できるという感覚にもつながるため、生徒も授業者も目がいきがちである。一方で思考・判断・表現は実体がつかみにくく、知識問題との区別もつきにくい。ゆえに「思考・判断・表現の力を伸ばす」ことのが具体が分かりにくく、結果的に授業内で思考・判断・表現の場は設定したとしても、その結果をテストで評価するとなると具体的にどうしたらよいか不明瞭なままになってしまうという問題がある。この点については、今後も思考・判断・表現の力の具体について研究を進めていきたい。また、教員間で評価実践例を蓄積し、良い先行事例をもとにさらにブラッシュアップしていくなかで、思考・判断・表現の評価の質を向上させていく必要があると感じる。